※令和３年度以前入学生用

| 学校番号 | ２２０１ |
|---|---|

# 令和５年度　芸術科

| 教科 | 芸術 | 科目 | 美術Ⅰ | 単位数 | ２ | 年次 | ２～４ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | 高校生の美術1（日本文教出版） | | | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | | | |

## １　担当者からのメッセージ（学習方法等）

生徒が興味、関心や個性を生かして主体的に取り組み、美術のよさや美しさを深く味わえるように研究していきたいと思います。

## ２　学習の到達目標

生活を送っていく中で身近にあり、かかせない日常の一部である美術の存在に気づき、生涯に渡り美術を愛好する心情を育てるとともに、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

## ３　学習評価(評価規準と評価方法)

| 観点 | a:美術への関心・意欲・態度 | b:発想や構想の能力 | c:創造的な技能 | d:鑑賞の能力 |
|---|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | 基本的な作業から主体的に作品作りに取り組む。 | 生徒それぞれの発想を自分の各作品に反映させる。 | 道具の使い方や作業への意識を正しく学び、主体的に発揮する。 | 自分なりの作品の味わい方、そのために必要なポイントを正しく学ぶ。 |
| 評価方法 | ・普段の様子から意欲を持って取り組んでいるか。<br>・作品の提出 | ・自らの思考や判断から作品が作られているか。<br>・作品の提出 | ・今生徒本人にできる作業を丁寧に行えているか。<br>・作品の提出 | ・適切な認識を持って作品と向かい合っているか。<br>・作品の提出 |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 主な評価の観点 | | | | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | a | b | c | d | | |
| 前期<br>4月<br>5月 | 図形模写 | 鉛筆に慣れ、観察する力を身につける。 | ○ | ○ | ○ | | a:積極的に手を動かす。<br>b:形を観察できている。<br>c:正しく鉛筆を使えている | 普段の様子<br>作品の提出 |
| 前期<br>6月<br>7月 | 名画の模写 | 対象をよく観察し、形態の特徴をつかみ、アクリル絵の具の特性を生かして条件や計画を基に表現することを知る。 | ○ | ○ | ○ | | a:主体的に作業をしている。<br>b:比較して色彩を使用する。<br>c:着彩道具を適切に使用する。 | 普段の様子<br>作品の提出 |
| 前期<br>8月<br>9月 | タッチステンド | 絵の具以外の色の表現に興味を持ち、色彩や構成、構図、色がどのような効果を生むかを考え工夫する。 | ○ | ○ | ○ | ○ | a:主体的に作業をしている。<br>b:必要な色を判断して選ぶ。<br>c:丁寧な作業で進めている。<br>d:画面全体を見て作業をする。 | 普段の様子<br>作品の提出 |
| 後期<br>10月<br>11月<br>12月 | 自由絵画 | 以前学習した色彩基礎や混色を使用し、自身の描きたいイメージを表現することに興味を持ち、探求する。 | ○ | ○ | ○ | ○ | a:主体的に作業をしている。<br>b:画面構成を自ら考える。<br>c:効果的な表現を行えている。<br>d:画面全体を見て作業をする | 普段の様子<br>作品の提出 |
| 後期<br>1月<br>2月 | 陶芸 | 粘土の特性、歴史を知り、日常で使用する物を自ら制作することにより身近な美術を感じる。 | ○ | ○ | ○ | ○ | a:積極的に年度と向き合う。<br>b:立体的作品をイメージする<br>c:道具を正しく扱える<br>d:準備から片付けまでを正しく行える。 | 普段の様子<br>作品の提出 |

※　表中の観点について　a:美術への関心・意欲・態度　　b:発想や構想の能力

c:創造的な技能　　d:鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。